

ワークショップ「大学院教育を考える、パート2」

# 大学院教育に対する教員の意識 ～ アンケート結果から ～

---

2006-9-19

日本機械学会大学院教育懇談会

佐藤 勲 (東京工業大学)

久保田 裕二 (東芝)



# アンケートの概要

- 目的：  
昨年度実施した企業会員向けアンケートの結果と対比することにより、大学院教育に対する産学での問題意識の相違点および共通点を明確にする。
- 実施期間：2006年6月5日～6月16日
- 対象者：大学に在籍する日本機械学会正員
- 回答率：

	依頼数	回答数	回答率
教員向けアンケート(2006年)	5,230	448	8.56%
企業会員向けアンケート(2005年)	10,495	2,008	19.1%

# 設問の概要

最終学歴	博士(課程博士)	修士	その他
自己の大学院経験に対する評価に関する設問	修士課程と博士課程に対して	修士課程に対して	
大学院教育に対する現状認識に関する設問			
大学院教育に対する改善案についての設問			
自由記述欄			

昨年度実施した企業会員向けアンケートと対比できるように設問を設定



# 大学院教育に対する現状評価

## ～ 結果概要 ～

---

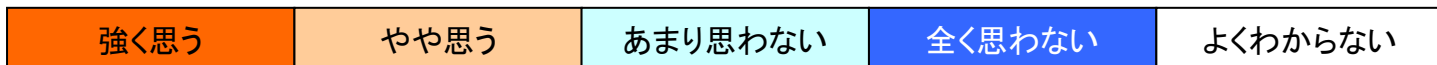
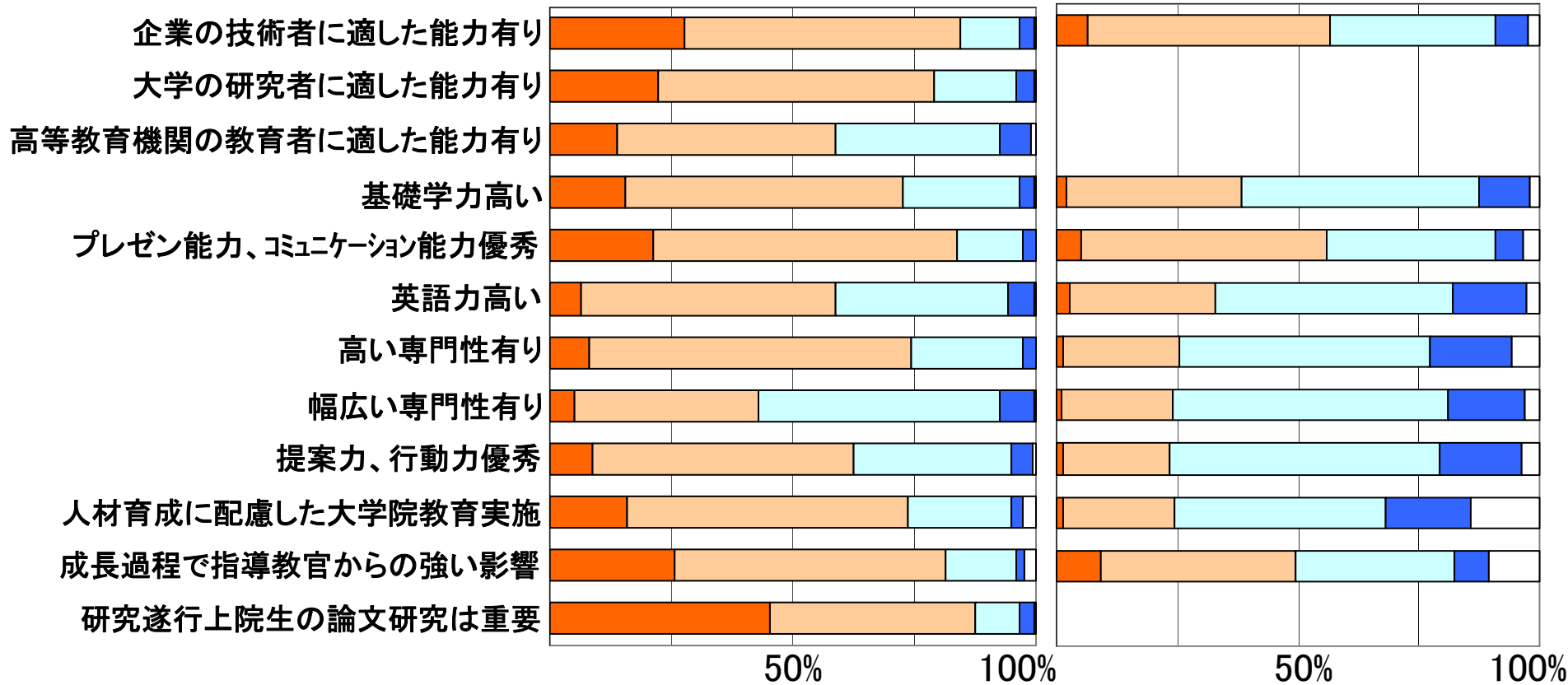
- 産業界に比べ現状に対する評価が高い。  
特に、修士課程に対する評価で全体的に差が大きい。  
博士課程の「専門性」にも大きな差。
- 絶対値として、「英語力」と「幅広い専門性」「提案力、行動力」に対する評価が低い。
- 多くの教員が「人材育成に配慮した教育を実施できた」と回答し、「教官からの影響」が大きいと評価。
- ほとんどの教員が「研究遂行上院生の論文研究は重要」と考えている。

# 大学院教育に対する現状評価

～ 産業界の意識との比較(修士課程) ～

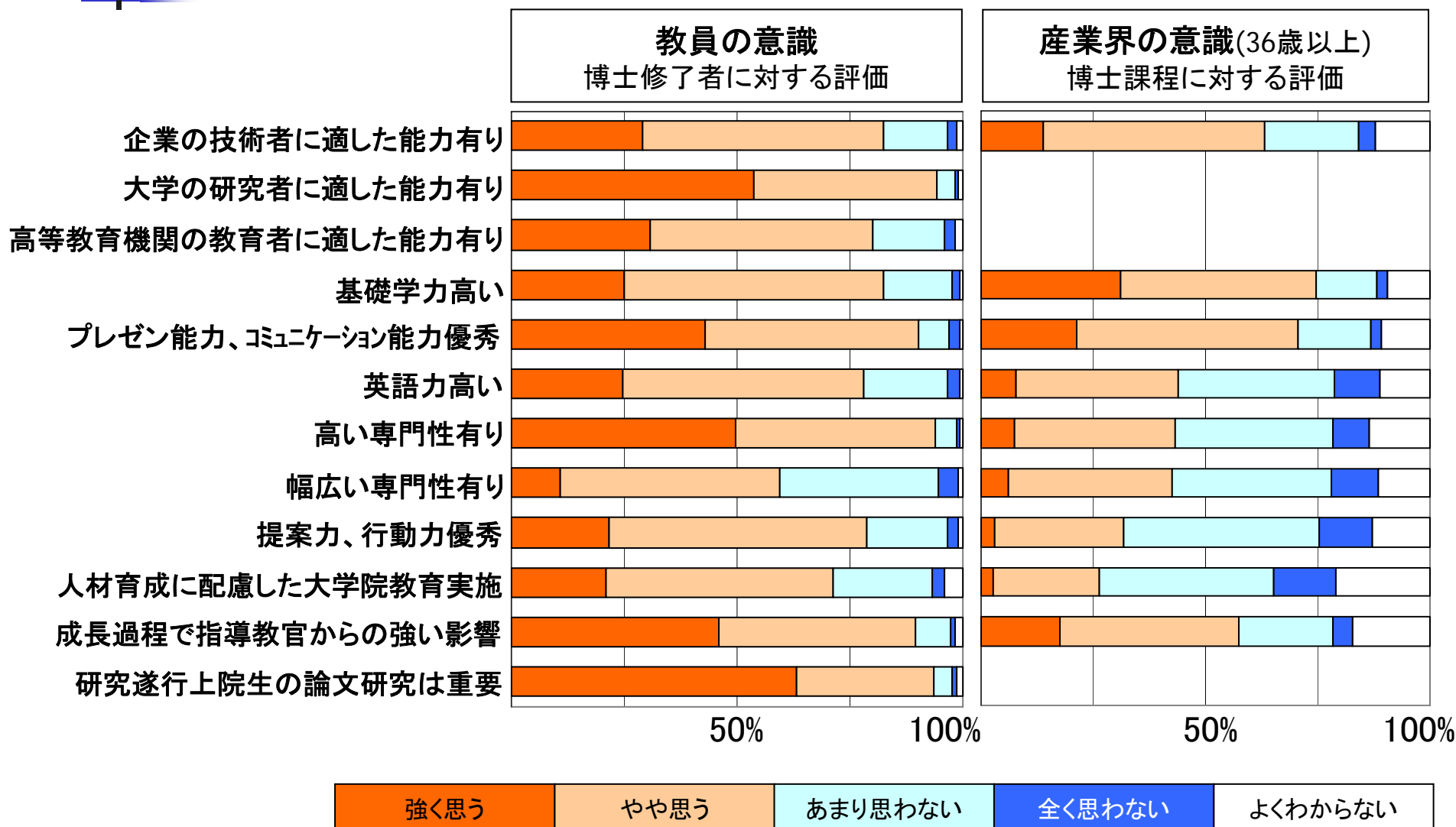
教員の意識  
修士修了者に対する評価

産業界の意識(36歳以上)  
修士課程に対する評価



# 大学院教育に対する現状評価

～ 産業界の意識との比較(博士課程) ～





# 大学院教育に対する改善施策

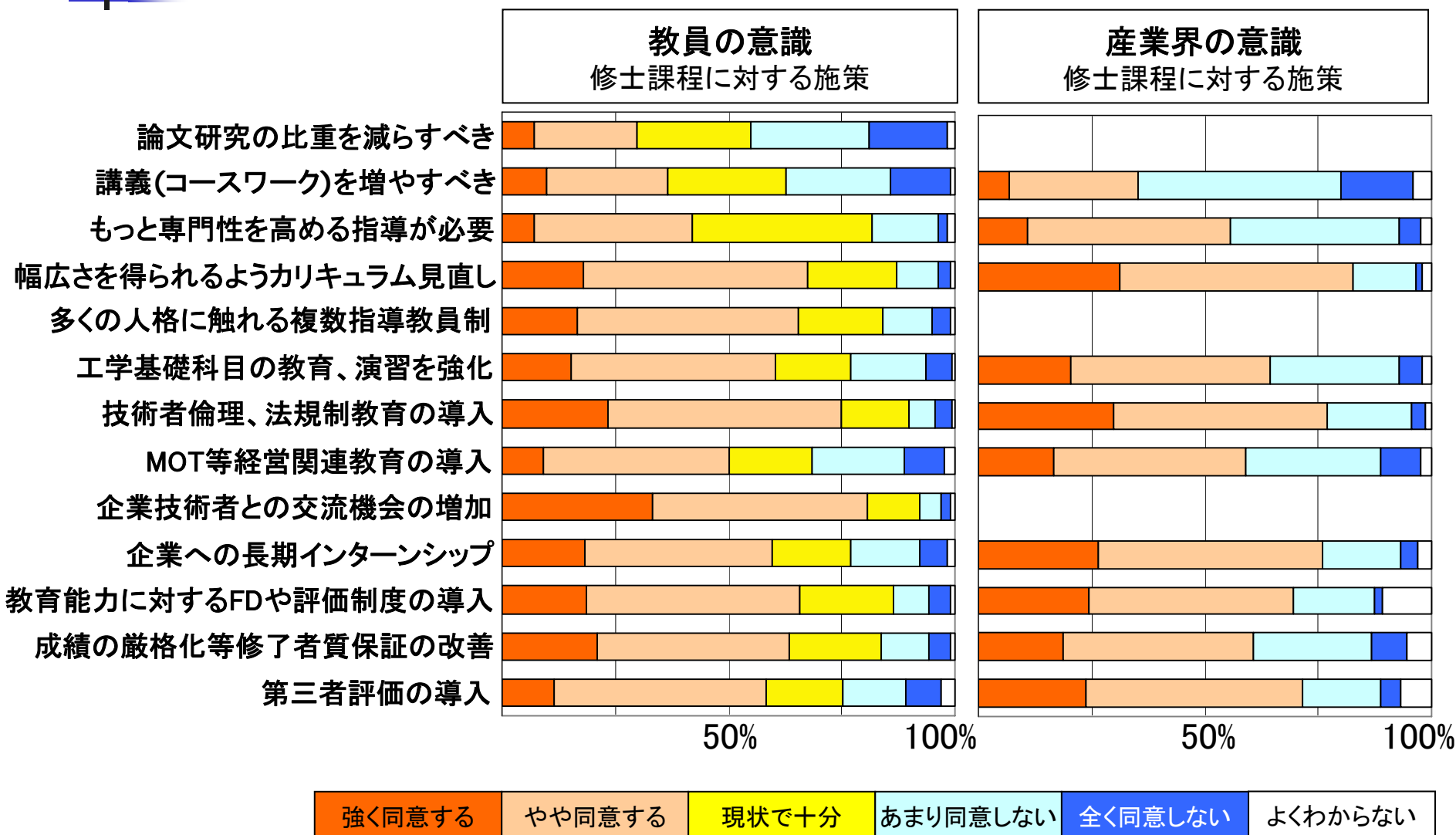
## ～ 結果概要 ～

---

- 修士課程に対しては産業界の意識と大差なし。博士課程に対しては教員の方がやや消極的。
- 「論文研究の比重を減らすべき」と「講義を増やすべき」への支持は少なく、「技術者倫理、法規制教育の導入」を支持する回答者が多い。
- 産業界との差が比較的大きいのは「幅広さを得られるようカリキュラム見直し」と「第三者評価の導入」で、いずれも教員の方が消極的。
- 「企業技術者との交流」を支持する教員が多い。
- 年齢層別では改善策に対し中堅層の教員がやや消極的。

# 大学院教育に対する改善施策

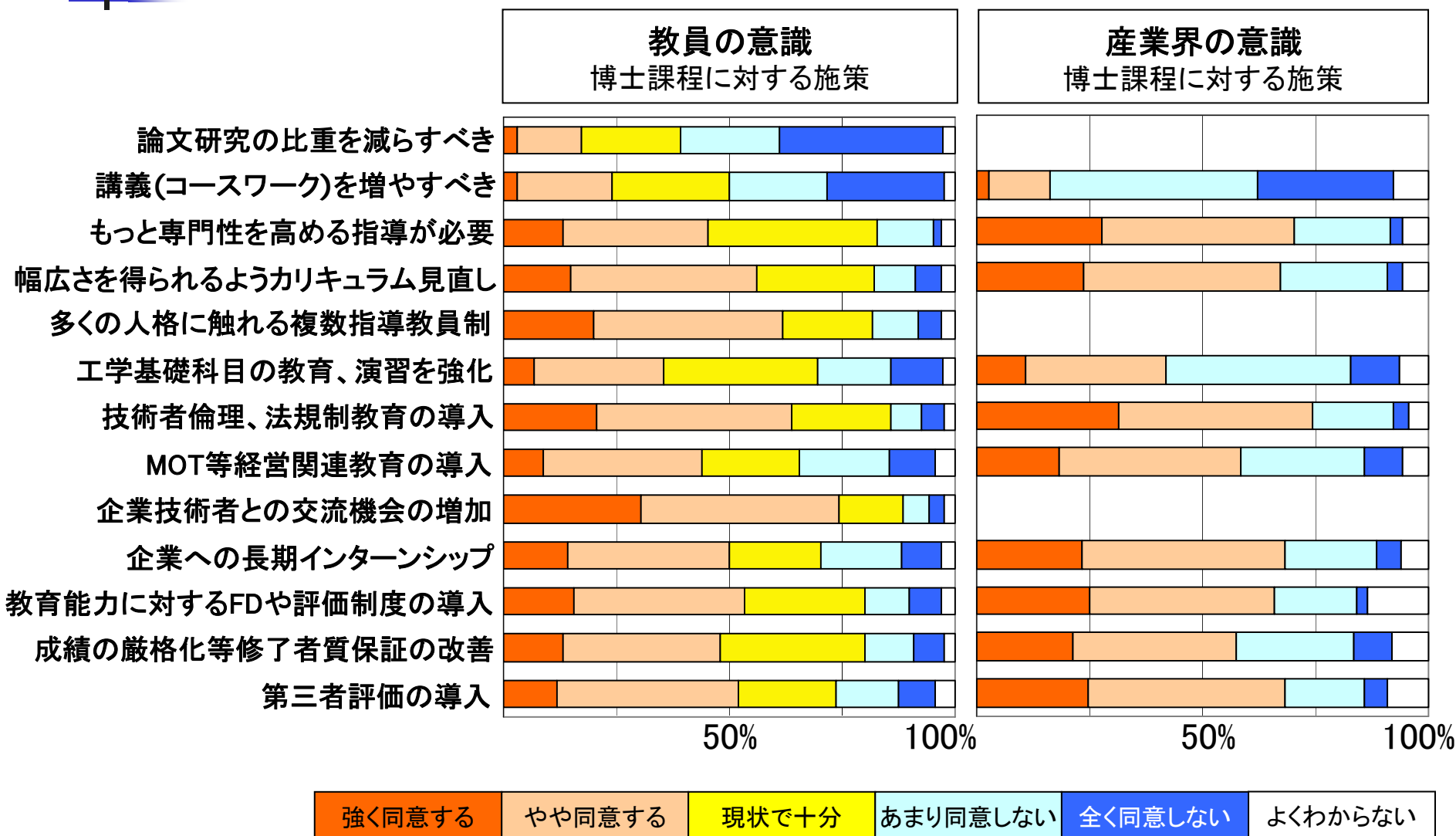
～ 産業界の意識との比較(修士課程) ～





# 大学院教育に対する改善施策

～ 産業界の意識との比較(博士課程) ～



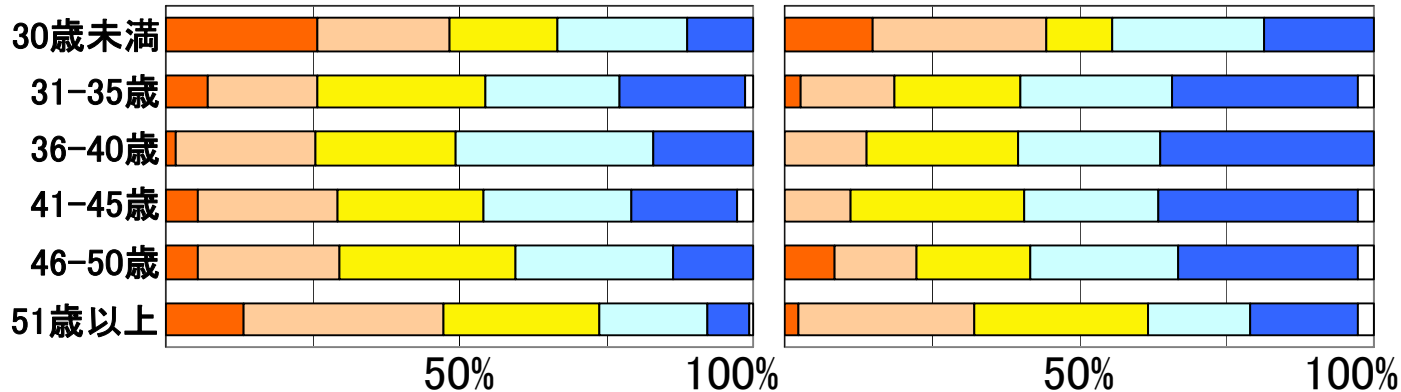
# 大学院教育に対する改善施策

## ～ 年齢層別教員の意識(1/2) ～

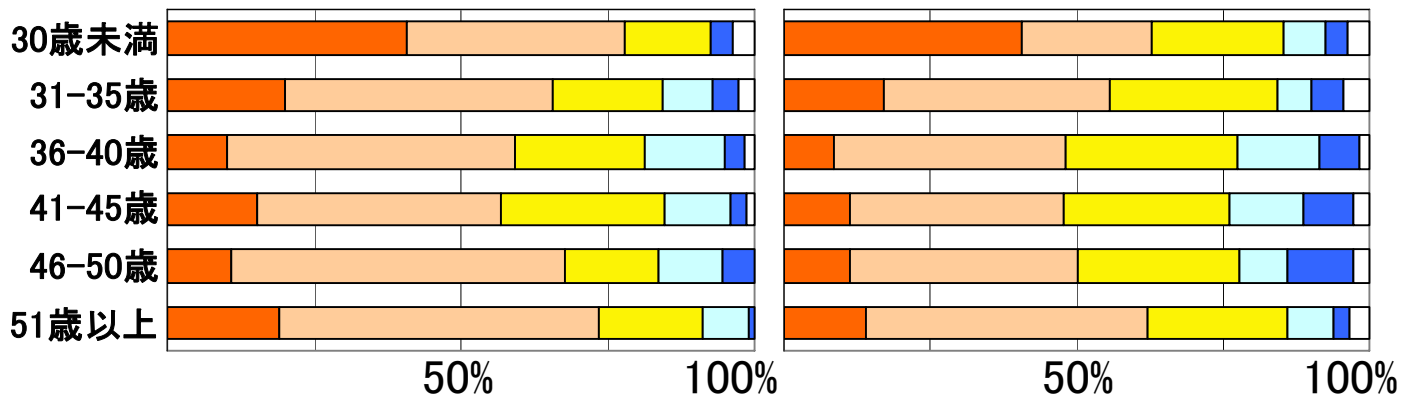
修士課程に対する施策

博士課程に対する施策

講義(コースワーク)  
を増やすべき



関連領域を含めた幅  
広い知識や視野を得  
られるようなカリキュ  
ラムの見直し



強く同意する

やや同意する

現状で十分

あまり同意しない

全く同意しない

よくわからない

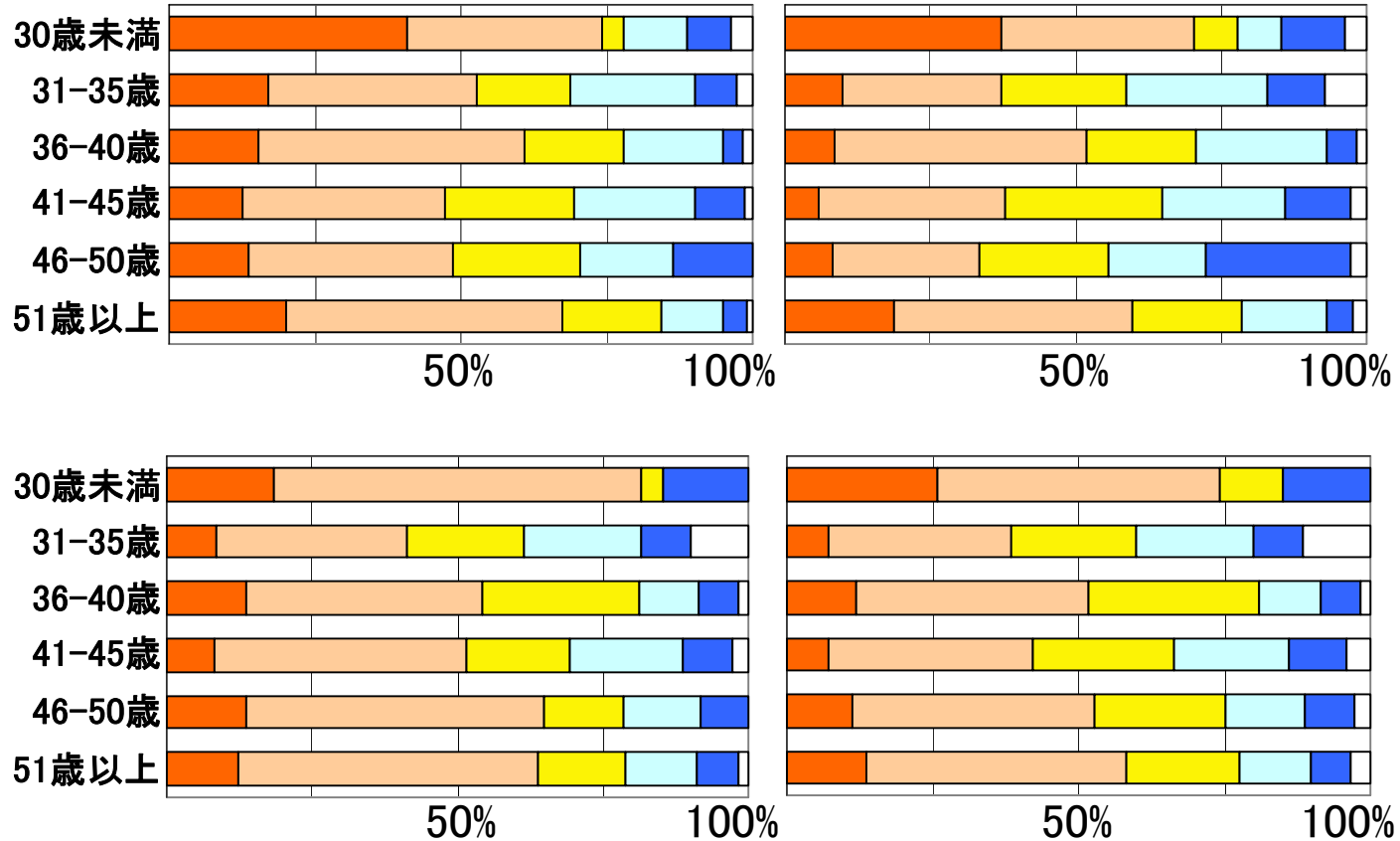
# 大学院教育に対する改善施策 ～ 年齢層別教員の意識(2/2) ～

企業などの実践的環境下におけるへの長期インターンシップは有益

第三者評価の導入

修士課程に対する施策

博士課程に対する施策



強く同意する    やや同意する    現状で十分    あまり同意しない    全く同意しない    よくわからない



# 自由記述欄より

- 最も多いのが、学生の質低下に関するもの。基礎学力だけでなく、意識の低さへの指摘が多い。大学院教育の改革の前に大学以前の改革が必要とする意見が多く、質低下の一因として定員確保優先を挙げている教員が多い。
- 次に多いのが企業側の問題に関するもの。産業界からの要求が不明確であり、待遇に差がない等、企業側の改善への努力を求めている。
- その次が、教員は雑務が多く教育へ割く時間がないという不満。教育への貢献は評価されない等、制度改善を求めている。
- その他で多いのは以下に関するもの。
  - 大学院は研究センターでよい。自信を持って現状維持。
  - 教員のレベルが低い。
  - インターンシップ制や人事等での企業との交流が必要。
  - 奨学金等、経済的支援強化が必要。
  - 終了認定基準がバラバラ、認定基準の厳格化、標準化が必要。



# まとめ(1/2)

- 自己の大学院経験に対する評価
  - 総合的には「有益であった」と評価するものの個々の能力に対しては自信がないという傾向は産業界の意識と同じ。特に、「英語力」は「役立つレベル」には至らなかったと感じている。
  - 産業界の意識に比べると全体的にポジティブ。特に、「専門性」は「役に立つレベル」と評価。
  - 「指導教員からの影響」は産業界に比べ更に大きい。
- 大学院教育に対する現状評価
  - 産業界に比べ現状に対する評価が高い。特に、修士課程に対する評価で全体的に差が大きい。博士課程の「専門性」にも大きな差。
  - 絶対値として、「英語力」と「幅広い専門性」「提案力、行動力」に対する評価が低い。
  - 多くの教員が「人材育成に配慮した教育を実施できた」と回答し、「教官からの影響」が大きいと評価。
  - ほとんどの教員が「研究遂行上院生の論文研究は重要」と考えている。



## まとめ(2/2)

- 大学院教育に対する改善施策
  - 修士課程に対しては産業界の意識と大差なし。博士課程に対しては教員の方がやや消極的。
  - 「論文研究の比重を減らすべき」と「講義を増やすべき」への支持は少なく、「技術者倫理、法規制教育の導入」を支持する回答者が多い。
  - 産業界との差が比較的大きいのは「幅広さを得られるようカリキュラム見直し」と「第三者評価の導入」で、いずれも教員の方が消極的。
  - 「企業技術者との交流」を支持する教員が多い。
  - 年齢層別では改善策に対し中堅層の教員がやや消極的。
- 自由記述より
  - 多くの教員が、学生の質低下に悩んでいる。
  - 産業界側の問題として、大学院教育に対する要求および大学院修了者の付加価値に対する考え方が不明との指摘が多い。



END

---

詳細については  
日本機械学会ホームページ  
「大学院教育に関するアンケート」  
をご覧ください。